

平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年10月2日

上場会社名 イオン九州株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2653 URL <http://www.aeon-kyushu.info/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 聡一  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 経営管理本部長 (氏名) 榊 隆之 (TEL) 092(441)0611  
 四半期報告書提出予定日 平成25年10月15日 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 ( 機関投資家・アナリスト向け )

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第2四半期の業績(平成25年3月1日～平成25年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	122,967		199		7		319	
25年2月期第2四半期	122,509	0.2	187	20.5	374	77.3	602	
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
26年2月期第2四半期	17.01							
25年2月期第2四半期	32.09							

(注)25年2月期は12ヶ月8日の変則決算であり四半期累計期間が異なるため対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年2月期第2四半期	106,013	20,868	19.6
25年2月期	109,822	21,256	19.3

(参考) 自己資本 26年2月期第2四半期 20,820百万円 25年2月期 21,218百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期		0.00		13.00	13.00
26年2月期		0.00			
26年2月期(予想)				13.00	13.00

(注)1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 配当の内訳 平成25年2月期 普通配当 10円 記念配当 3円  
 平成26年2月期(予想) 普通配当 13円

3. 平成26年2月期の業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	253,000		3,100		2,850		1,200		63.93

(注)1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2 25年2月期は12ヶ月8日の変則決算であり四半期累計期間が異なるため対前年同四半期増減率は記載しておりません。

## 注記事項

( 1 ) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

( 2 ) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

( 3 ) 発行済株式数 ( 普通株式 )

期末発行済株式数 ( 自己株式を含む )

26年2月期2Q	18,787,619株	25年2月期	18,787,619株
26年2月期2Q	18,308株	25年2月期	17,939株
26年2月期2Q	18,769,469株	25年2月期2Q	18,769,051株

期末自己株式数

期中平均株式数 ( 四半期累計 )

### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 ( 添付資料 ) 5 ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	5
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	6
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
3. 四半期財務諸表 .....	7
(1) 四半期貸借対照表 .....	7
(2) 四半期損益計算書 .....	9
第2四半期累計期間 .....	9
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) セグメント情報等 .....	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間における当社を取り巻く経済環境は、金融緩和策の効果もあり株高基調に転じる等、景気回復への明るい兆しが見え始めたものの、原材料値上げや電気料金値上げ等、お客さまの生活防衛意識に引き続き影響を与えております。

このような状況の下、当社は新たな店舗展開や既存店の活性化、専門性の高い品揃えや専門知識を持った人材を揃えた専門店化の取り組み、よりよいサービスのご提供など、お客さまニーズへのさらなる対応を図ることで九州の成長とお客さまの暮らしの豊かさに貢献できるよう努めてまいりました。

#### <業績全般の概況>

当第2四半期累計期間においては、競合各社との価格競争に加え、業種・業態を越えた競争が激化するなど厳しい環境の中、当社は、イオンのブランド「トップバリュ」の強化、「売場の専門店化」「既存店舗の活性化」に重点的に取り組んでまいりました。

売上面では、食料品を中心に火曜市の強化、農産・水産・畜産における生鮮強化の取り組みを行った結果、前年同期間を上回りました。

利益面では、売上総利益率の高いファッション衣料の売上が伸び悩んだ影響や食品における価格競争により、対前年同期比を0.2ポイント下回りました。

経費面では、店舗オペレーションの効率化等や経費のコントロールに努める一方、昨年オープン店舗や下期オープン予定店舗の件数増加、競争力強化に向けた既存店の活性化投資、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた省エネルギー設備投資を推進した結果、販管費は対前年同期比100.7%となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の営業収益は1,229億67百万円、営業損失は1億99百万円、経常損失は7百万円、四半期純損失は、減損損失として3億25百万円を特別損失に計上したこともあり、3億19百万円となりました。

(注)対前年同期比は、決算日変更により四半期累計期間が異なるため、参考数値として記載しています。

#### <主な取り組み事項>

##### 〔新規出店の取り組み〕

- ・ ワイドマート ドラッグ&フードは、新たに3店舗の出店を行ってまいりました。2013年4月12日、大分県大分市へ「ワイドマート ドラッグ&フード森町店」をオープン、4月25日、福岡市西区へ「ワイドマート ドラッグ&フード壱岐団地店」をオープン、7月5日には、北九州市小倉北区へ「ワイドマート ドラッグ&フード白銀店」をオープンいたしました。

##### 〔既存店活性化の取り組み〕

- ・ 総合スーパー(GMS)では、「イオン香椎浜店(福岡市東区)」「イオン福岡店(福岡県糟屋郡)」「イオン福岡伊都店(福岡市西区)」「イオン福岡東店(福岡県糟屋郡)」「イオン原店(福岡市早良区)」「イオン直方店(福岡県直方市)」「イオン八幡東店(北九州市八幡東区)」「イオン宮崎店(宮崎県宮崎市)」「イオン佐賀大和店(佐賀県佐賀市)」などで、地域のお客さまのご要望にお応えできるよう既存店の活性化に取り組んでまいりました。
- ・ ホームセンター(HC)では、「ホームワイド高千穂店(宮崎県西臼杵郡)」の増床活性化を実施いたしました。一般のお客さま向けのDIY商品からプロユースまで幅広いニーズに対応できる作業工具・作業用品の展開を拡大してまいりました。

〔専門店化の取り組み〕

- ・ 専門性を深めた品揃えやサービスの拡充を図る「専門店化」の取り組みについて、総合スーパー（GMS）既存店への導入を積極的に推進しました。国内外の銘酒を取り揃えた「リカー売場」、手芸専門店「パンドラハウス」、自転車専門店「イオンバイク」の展開に取り組みました。
- ・ 総合スーパー（GMS）8店舗では、直営靴売場から、イオンの靴専門店「グリーンボックス」の導入を行いました。グリーンボックスは、健康とファッションをテーマに、デイリーユースを意識した低価格商品から高品質なシューズまでを豊富にラインナップし、幅広いお客さまニーズにお応えいたします。

〔商品面の取り組み〕

- ・ イオンのブランド「トップバリュ」の認知度向上を図るため、毎月1日～7日までの1週間を「トップバリュ週間」と位置づけ、お試し価格でご提供するなど販売強化に取り組みました。
- ・ 生活の基本アイテムを安心品質、お買い得価格で提供する衣食住ブランド「トップバリュ」を中心に、素材、産地、製法、機能にこだわった高品質ブランド「トップバリュ セレクト」、低価格で提供する「トップバリュ ベストプライス」、調理済みで短時間で準備ができる「トップバリュ レディーミール」の展開を実施いたしました。
- ・ シニア層のお客さまや単身者のお客さま向けに、少量パックや簡単に調理ができる食品商材など利便性を追求した商品の展開を実施してまいりました。
- ・ 毎週火曜、土曜日に、魚や野菜など新鮮地場産品を中心に、旬やおいしさにこだわった商品を豊富に品揃えした「自慢の市」を実施いたしました。
- ・ 地産地消の推進として、食料品を中心に店舗ごとに地場産品の積極的な販売に努めるとともに、「長崎うまいものフェア」「熊本うまいものフェア」「情熱！みやざきフェア」「鹿児島うまいものフェア」と題して、九州各県の特産品を当社のイオン店舗で販売する取り組みを行いました。
- ・ イオンクレジットカードを月々ご利用いただいているお客さまへのお得な特典として、夏の暮らしを応援する「エアコン大商談会」や、太陽光発電、キッチン、お風呂、トイレ、洗面所、リビング、ダイニングなど、お家のリフォームに関する商品をご提案する「暮らしの大商談会」を期間限定で実施いたしました。

〔Eコマースの取り組み〕

- ・ イオンネットスーパーでは、福岡県、長崎県、宮崎県、大分県、鹿児島県の九州5県全地域に商品を配送するサービスを開始いたしました。（一部離島は除きます。お届け地域によりましては、当サービスをご利用いただけない場合がございます。）
- ・ 2013年4月3日よりイオン福津店・イオン筑紫野店にて、おサイフケータイを活用した、「イオンスクエアかざすサービス」を開始いたしました。今期については福岡県の店舗を中心に導入を行ってまいりました。（2013年8月31日現在 福岡県下13店舗のイオン店舗へ導入済み）

〔環境保全・社会貢献の取り組み〕

- ・ 地方自治体と当社の双方が持つ資源を有効活用し地域の活性化につなげるため、2013年7月22日に熊本県と包括提携協定、2013年8月5日には宮崎県と包括提携協定を締結いたしました。
- ・ イオンの電子マネー「WAON」の拡大に努めるなかで、カードのご利用金額の一部を地域貢献に役立てる、ご当地WAONの発行を進めております。当第2四半期累計期間では、九州地区において「くまもと火の国WAON」を発行いたしました。
- ・ 2013年4月18日、福岡県との包括提携協定の共助社会づくり活動として、当社及びマックスバリュ九州株式会社は、電子マネー「ふくおか 共創WAON」のご利用額の0.1%を寄付金として、福岡県へ贈呈させていただきました。この寄付金は、福岡県を通じて「ふくおか地域貢献活動サポート事業」の支援に役立てていただきます。
- ・ 2013年6月16日、熊本県八代市との地域貢献協定活動の取り組みとして、当社及びマックスバリュ九州株式会社は、電子マネー「やつしろがめさんWAON」のご利用額の0.1%を寄付金として、熊本県八代市へ贈呈させていただきました。この寄付金は、熊本県八代市を通じて市の文化振興および地域の活性化の支援に役立てていただきます。
- ・ 2013年3月9日から11日の3日間、東日本大震災の被災地の子どもたちを応援する「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施いたしました。期間中に投函していただいたレシート合計金額は約7億14百万円となり、その1%に当たる約7百万円をグループ他社からの寄付とあわせ、福島県・岩手県・宮城県に贈呈いたしました。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

### 資産、負債及び純資産の状況

#### <資産>

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて38億9百万円減少し、1,060億13百万円となりました。これは主に未収入金および差入保証金の減少によるものです。

#### <負債>

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べて34億21百万円減少し、851億44百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少によるものです。

#### <純資産>

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べて3億88百万円減少し、208億68百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

### キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末に比べ13億12百万円増加し、当第2四半期会計期間末には37億59百万円となりました。

(注)2013年2月期は12ヶ月8日の変則決算であり四半期累計期間が異なるため対前年同四半期増減率は記載しておりません。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりです。

#### <営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動による資金の増加は109億58百万円となりました。これは主に、預り金や仕入債務の増加に加え、未収入金が減少したことによるものです。

#### <投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動による資金の減少は10億12百万円となりました。これは主に、新規出店及び既存店活性化のための投資により資金が減少したためです。

#### <財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動による資金の減少は86億32百万円となりました。これは主に、有利子負債が減少したためです。

## (3) 業績予想に関する定性的情報

今後も、引き続き景気の先行き不透明感からくる個人消費の伸び悩みや、業種業態を越えた競争激化が想定されますが、さらにお客さまのニーズに合った売場づくりや魅力ある商品の展開に注力することで売上高の拡大・利益率の改善を図り、企業の成長につなげてまいります。

通期の業績予想につきましては客数増加の取り組みとして、第2四半期累計期間までに実施した売場の専門店化による既存店の活性化や、食品による生鮮強化の取り組み、新規出店効果などを勘案し、2013年4月9日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### 3. 四半期財務諸表

#### (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2013年2月28日)	当第2四半期会計期間 (2013年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,446	3,759
受取手形	15	11
売掛金	879	1,148
商品	24,206	23,072
その他	8,093	5,678
貸倒引当金	13	2
流動資産合計	35,628	33,668
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	35,659	34,963
その他(純額)	16,727	17,118
有形固定資産合計	52,387	52,082
無形固定資産		
	104	98
投資その他の資産		
差入保証金	14,554	12,860
その他	7,148	7,303
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	21,702	20,163
固定資産合計	74,194	72,344
資産合計	109,822	106,013
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	1,890	1,388
電子記録債務	5,756	4,683
買掛金	16,753	20,582
短期借入金	6,548	1,600
1年内返済予定の長期借入金	10,105	9,995
コマーシャル・ペーパー	500	500
未払法人税等	1,121	164
賞与引当金	599	688
役員業績報酬引当金	8	2
その他	15,694	19,343
流動負債合計	58,978	58,949
固定負債		
長期借入金	18,060	14,730
退職給付引当金	279	318
資産除去債務	1,262	1,281
その他	9,986	9,865
固定負債合計	29,588	26,195
負債合計	88,566	85,144

(単位:百万円)

	前事業年度 (2013年2月28日)	当第2四半期会計期間 (2013年8月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,144	3,144
資本剰余金	9,192	9,192
利益剰余金	7,706	7,143
自己株式	31	32
株主資本合計	20,012	19,448
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,206	1,371
評価・換算差額等合計	1,206	1,371
新株予約権	38	48
純資産合計	21,256	20,868
負債純資産合計	109,822	106,013

(2) 四半期損益計算書  
第2四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2012年2月21日 至2012年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自2013年3月1日 至2013年8月31日)
売上高	115,086	115,572
売上原価	83,565	84,122
売上総利益	31,521	31,449
その他の営業収入	7,422	7,395
営業総利益	38,943	38,845
販売費及び一般管理費	38,756	39,044
営業利益又は営業損失( )	187	199
営業外収益		
受取利息	32	28
受取配当金	22	22
テナント退店違約金受入	33	19
補助金収入	20	15
差入保証金回収益	229	227
その他	56	60
営業外収益合計	396	374
営業外費用		
支払利息	173	152
その他	35	30
営業外費用合計	209	182
経常利益又は経常損失( )	374	7
特別利益		
固定資産売却益	4	-
特別利益合計	4	-
特別損失		
固定資産除売却損	19	-
減損損失	913	325
店舗閉鎖損失	-	8
特別損失合計	932	334
税引前四半期純損失( )	553	341
法人税、住民税及び事業税	147	100
法人税等調整額	98	123
法人税等合計	49	22
四半期純損失( )	602	319

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2012年2月21日 至2012年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自2013年3月1日 至2013年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失( )	553	341
減価償却費	2,330	2,394
減損損失	913	325
賞与引当金の増減額( は減少)	104	88
退職給付引当金の増減額( は減少)	76	39
受取利息及び受取配当金	55	51
支払利息	173	152
売上債権の増減額( は増加)	211	264
たな卸資産の増減額( は増加)	2,055	1,110
未収入金の増減額( は増加)	494	2,045
仕入債務の増減額( は減少)	2,277	2,253
預り金の増減額( は減少)	1,329	2,479
その他	1,409	1,895
小計	5,790	12,127
利息及び配当金の受取額	28	25
利息の支払額	174	150
法人税等の支払額	1,329	1,044
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,313</b>	<b>10,958</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	3,978	3,214
有形固定資産の売却による収入	18	0
差入保証金の差入による支出	62	20
差入保証金の回収による収入	140	2,382
預り保証金の受入による収入	302	126
預り保証金の返還による支出	469	254
長期前払費用の取得による支出	18	16
その他	6	15
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,073</b>	<b>1,012</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額( は減少)	1,000	4,948
長期借入れによる収入	4,600	-
長期借入金の返済による支出	2,310	3,440
自己株式の増減額( は増加)	0	0
配当金の支払額	187	244
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,102</b>	<b>8,632</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額( は減少)</b>	<b>1,342</b>	<b>1,312</b>
現金及び現金同等物の期首残高	4,294	2,446
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>5,637</b>	<b>3,759</b>

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## 1) 前第2四半期累計期間(自 2012年2月21日 至 2012年8月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 損益計算書 計上額 (注) 4
	総合小売 事業	ホームセン ター事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	101,551	12,658	114,209	877	115,086		115,086
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	101,551	12,658	114,209	877	115,086		115,086
セグメント利益又は損失 ( ) (注) 1	2,365	33	2,399	80	2,318	2,131	187

(注) 1. セグメント利益又は損失( )は、社内管理利益によっております。

2. 「その他の事業」の区分は、総合小売事業とホームセンター事業に属さない販売形態の店舗で、現在は「ワイドマート ドラッグ&フード」「イオンバイク」を展開しております。

3. セグメント利益又は損失( )の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない本社管理部門の一般管理費であります。

4. セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

- ・「総合小売事業」セグメント、「ホームセンター事業」セグメント及び「その他の事業」セグメントにおいて、店舗における営業活動から生ずる損益が継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、「総合小売事業」セグメントで845百万円、「ホームセンター事業」セグメントで38百万円、「その他の事業」セグメントで29百万円であります。

- ・のれん等に関する情報については、該当事項はありません。

## 2) 当第2四半期累計期間(自 2013年3月1日 至 2013年8月31日)

## 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期 損益計算書 計上額 (注)4
	総合小売 事業	ホームセン ター事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	102,395	11,872	114,267	1,305	115,572		115,572
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	102,395	11,872	114,267	1,305	115,572		115,572
セグメント利益又は損失 ( ) (注)1	2,091	49	2,042	187	1,855	2,054	199

- (注) 1. セグメント利益又は損失( )は、社内管理利益によっております。  
 2. 「その他の事業」の区分は、総合小売事業とホームセンター事業に属さない販売形態の店舗で、現在は「ワイドマート ドラッグ&フード」「イオンバイク」を展開しております。  
 3. セグメント利益又は損失( )の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない本社管理部門の一般管理費であります。  
 4. セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

- ・「総合小売事業」セグメントにおいて、店舗における営業活動から生ずる損益が継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、325百万円であります。

- ・のれん等に関する情報については、該当事項はありません。

## 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2013年3月1日付で組織の見直しを行い、「ワイドマート ドラッグ&フード事業」を今後の事業展開に向け、ホームセンター事業部の傘下から切り離し単独組織といたしました。これに伴い第1四半期会計期間より「ホームセンター事業」に含まれていた「ワイドマート ドラッグ&フード事業」を「その他の事業」へ移動しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、前第2四半期累計期間の「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。